



革新懇・国民救援会・平和委員会など
県の革新懇と国民救援会、安保破壊実行委員会と平和委

ロシアのウクライナ侵略に抗議する

40人が参加。参加者はウクライナに連帯する国旗の色を身に着けたり手作りプラスターに「武力で平和は作れない」などのプラスターを手に参加しました。
保険医協会や県労連などがリレートークし、県平和委員会の榎昭二筆頭代表理事（日本共産党県議）は、プーチン大統領の核兵器使用発言を批判「人類の生存も脅かすことになる。国際世論を大きく高め、侵略止めよの声を大きく上げよう」と

民主香川

定価 月 100円
発行所
民主香川社
高松市藤塚町
3丁目13-14
☎(087)834-7311

市民連合が朝宣伝

市民連合@かがわは19日、ロシアのウクライナ侵略に抗議する朝宣伝を高松市内で行いました。
琴電瓦町駅前では、日本共産党の石田まゆめ院選挙区候補、立憲民主党の吉峰幸夫市議、新社会党の井角操県本部委員長、みどり・香川の野中康生氏、香川1000人委員会の小島正雄氏



がリレートーク。参加者は駅利用者にも、日本での改憲や核共有の動きに反対しました。
訴えでは、ロシアを非難するとともに、日本での改憲や核共有の動きに反対しました。

石田氏は、政府の敵基地攻撃能力や改憲の動きについて「九条を生かした外交を。軍事対軍事では軍拡競争に発展する。「侵略止めよ」の国際世論を広げることが九条を持つ日本の役割です」と強調しました。
井角氏は【2面につづく】

土器台器

五月の爽やかな空に鯉幟が泳いでいます。小さな家のベランダで。大きな農家の庭先の高い竿を流れて。わが家の近くを流れる財田川の河川敷には、長いロープが張られて地域から持ち寄せられた大小さまざまな8匹が。貼られたロープの一方に青と黄色のウクライナの国旗が翻っていました。「わが子、わが孫の健やかな成長とともにウクライナの子どもたちにミサイルが飛ばない空を！家族で平和な日々を送れますように」との願いが込められているのだと思えました▼4月19日に行った9条の会の「9の日の宣伝」で私は、「しんぶん赤旗」の『読者の広場』掲載の川柳を紹介しながら訴えました。「言論の自由殺して戦争」から始まり、「プーチンの一人戦争鉄面皮／逃げ感う母と子に銃ロシア兵／罪のない子らの犠牲に身が震え／むご過ぎる画面に堪えかねテレビ消す／刻々と核戦争が見え隠れ／投下した国と相合傘の国／ロシア語の行使も肩身狭くなり／好きなロシア民謡歌えない／NOWARの意思表明も命がけ／制裁のポディープロが聞き始め／核兵器禁止条約地球」と、私の解説をまじえながら訴えました▼さすが「赤旗」読者の川柳です。その紹介だけで十分に訴えは伝えられたと満足しました。最後に「ロシアへの怒り聞こえてくる紙面」の句を紹介して、「どんな形でもいい。ロシアはウクライナから撤退を」

‘南風’にひそうへい

「一人の被害者の後ろには同じように苦しむ千人の人たちがいる」と私は肝に銘じ、裁判でも国会でも「被害ある限り絶対に諦めない」と頑張ってきました。
憲法施行75年をふりかえって大切だと思うのは、そうした闘いを通じて個人の尊重・民主主義・平和の憲法が空気のようにみんなのものになり、ジェンダー不平等に「もう沈黙しない」と噴き上がる声、気候危機・コロナ危機から命と未来を守る若者たちの力が日本社会を激動させているということ。生活苦や生きづらさの大元には社会のしくみがある。力を合わせて変えよう」という私の演説に、多くの若者たちが声をかけてくれます。話してみると真剣。「話できて良かったです」「自信が持てた」



と笑顔が広がり、「お互い頑張ろうね」とエールを交換する機会がほんとうに増えました。嬉しいですね。
若者たちは「ロシアはウクライナ侵略やめよ」の思いを強めています。今なお「ロシア・ウクライナ・ベラルーシは三位一体」「当初の目標を達成するまで軍事作戦を続ける」などとうそぶき侵略をやめようとしていないプーチン政権に、怒りで身体が震えます。だからこそ私は、心を焙られるような思いでいる多くの人たちといっそう力強く語り合いたいと思います。
戦争に勝者はありません。戦争は政治の敗北です。どんな紛争も絶対に連憲章に基づく平和秩序をなんとか取り戻そう。大きな声を上げ続けましょう。

高松東バイパス沿いの遺跡 55 川添地区Ⅳ 土器作りは女性の仕事

末光 甲正

久米池南遺跡では、弥生 半分に折れています。時代の中期後半二千年は、他に、長さ約10センチ、太さ3センチくらいの石柱の片方、おおよそ百年間、山の上での生活を続けたものと思われ。当時の生活用品で、土の中で腐らずに残るものは石で作った道具、石器か、土器がほとんど。この遺跡から出た石器は、石鏃（せきぞく）が多かったのですが、他に、長さ15センチ、幅6〜7センチ、厚さ3〜4センチの細長い河原石の一方の端を、根気よく研ぎ出して刃をつけた、太形蛤刃石斧（ふとがたはまぐりばせきぶ）という石斧があります。研ぎ出した刃の先の形が蛤に似ていますが重くて、柄をつけて立木を切り倒すなどの道具で使いました。丸木に、くさびのように入れた後、貯蔵や煮炊き盛りに使いました。壺や高坏は、模様がつけたり磨いたものは殆ど刃が欠けるか、丁寧な造りのものが多



甑（こしき）形土器Ⅱ蒸し器

い傾向があります。甕は、煮炊きに使われた証拠に、真っ黒な煤がついたまま出土する例もあります。
久米池南遺跡のムラで、出てきた土器は、刷毛やスポンジで丁寧に土を洗い落とし、完全に乾かし、セメタイン等で接着します。破片の足りない部分は、石膏で補い、元の形にして一つ一つ正確な図面を取ります。繋がるかどうか分らない破片を探してピタリとくっつけるのは、ジグソーパズル以上に根気のいる仕事です。土器の破片を探しながらつなぐ作業の中で面白い事に気づきました。土器の表面は削ったり磨いたり、壺や高坏には模様もつけますが、土器の内側は手で触ったままの状態で焼かれたのもあります。
中には、指紋がはっきりと入っています。久米池南遺跡には、私の手が、中へ入らない壺が、幾つかありました。女性に試して貰うとスツと入りました。久米池南遺跡でも、土器造りは女性の仕事だったようです。